

令和4年度全国学力・学習状況調査 二紀宝町の結果概要二

令和4年9月8日 紀宝町教育委員会

1. 紀宝町の平均正答率と年度間変化の様子

「標準化得点」から見た紀宝町の子どもたち

小6	令4	令3	令元	平30	
国語	96	99	100	国A	97
				国B	98
算数	97	100	99	算A	98
				算B	97
理科	97				
全国	100	100	100		100

中3	令4	令3	令元	平30	
国語	99	98	99	国A	99
				国B	99
数学	98	99	100	数A	102
				数B	99
理科	98				
英語			101		
全国	100	100	100		100

※令和2年度の学力調査は中止
 ※「標準化得点換算ツール」(文部科学省)

斜線部は
未実施

「平均正答率」では、問題の難易度が揃っていないため、年度間比較はできません。「標準化得点」は、全国平均正答率を100で表した場合の紀宝町の学校の年度間の相対的な得点として表わすことができます。

令和4年度の調査結果では、小学校・中学校ともに全国の「平均正答率」を下回りました。中でも小学校の国語に全国との大きな差が見られ、今後の課題となります。

ただ、紀宝町内の小中学校の年度間変化を「標準化得点」で表すと、教科による得点の上下はありますが、全国に大きく差を開けられることは少なくなっています。このことは、近年の紀宝町内の各学校の授業の改善や工夫による学力向上推進の取り組みの成果であり、紀宝町の子どもたちの学力の向上と安定に寄与しているといえます。

「令和4年度の調査結果(平均正答率)」

小学校	国語	算数	理科
紀宝町	55%	58%	58%
三重県	65%	62%	63%
全国	65.6%	63.2%	63.3%

中学校	国語	数学	理科
紀宝町	68%	48%	47%
三重県	68%	52%	48%
全国	69.0%	51.4%	49.3%

※現中学3年生が、小学6年生時(平成31年)の本調査結果と平均正答率を比較すると、2科目ともに全国平均との差は少し広がりましたが、その広がりはずかといえます。【国語：-1.0、(小6：-0.2)、数学：-3.4(小6：-2.6)】

2. 平均無解答率から見た年度間変化の様子

一般的に、少し複雑な思考や判断を要する問題に対して、子どもたちは解答することをあきらめ、「無解答」となる割合が高まる傾向があります。

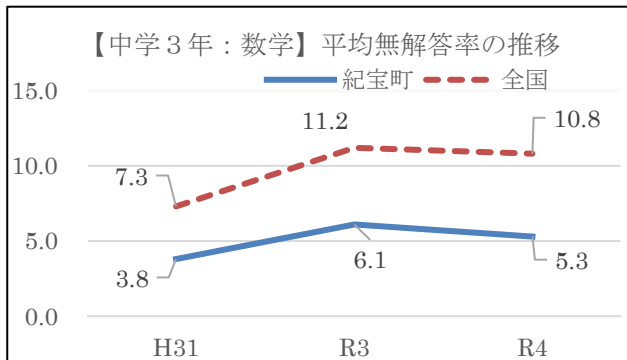
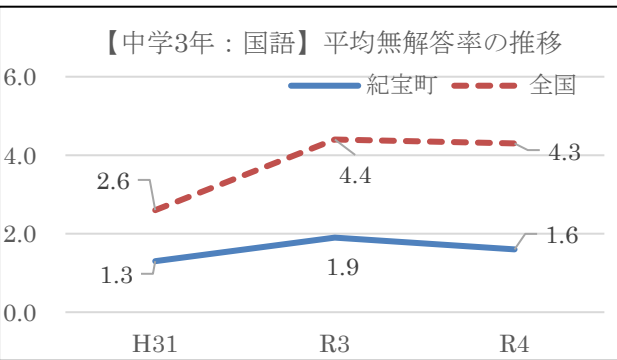
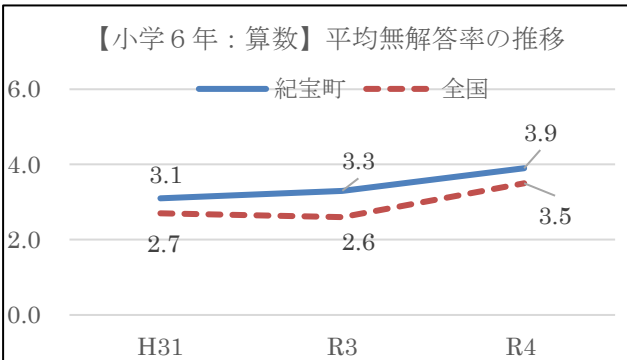
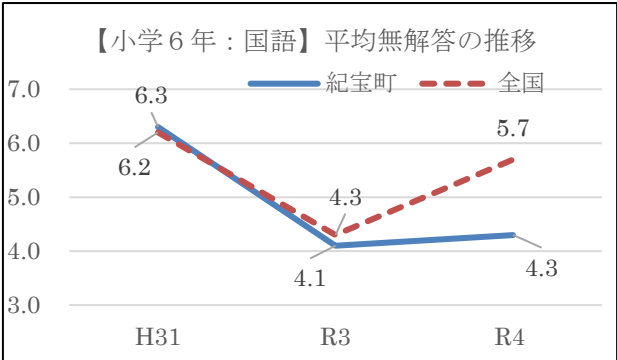
紀宝町の小中学校では、読む力、考える力、書く力、発表する力などの向上を目指して、普段から「自分で考えをまとめて、最後まであきらめず取り組んでみよう」という指導を継続・徹底してきました。その結果、記述式問題も含め、無解答率は、小・中ともに低く抑えられ、全国の無解答率を大きく下回る教科が増えています。

＜紀宝町の小学6年生の平均無解答率の推移＞ 算数で全国平均よりわずかに高く推移していますが、国語は年々全国平均との差が広がり、無解答率は低くなっています。

＜紀宝町の中学3年生の平均無解答率の推移＞ 国語、数学ともに全国平均より低く抑えられ、その差も少しずつ広がっています。

紀宝町の 調査結果	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均無解答率（紀宝町）	4.3%	3.9%	2.0%	1.6%	5.3%	1.2%
平均無解答率（全国）	5.7%	3.5%	3.6%	4.3%	10.8%	3.4%

※日頃から児童生徒たちが、課題としっかり向き合い、自分で考え、あきらめずに粘り強く取り組んできた結果と言えます。今後も、自分の考えを表現することを大切にしながら、より思考を深める指導に取り組んでまいります。



3. 各教科における『学習指導要領』の領域ごとの特徴

【小学校】

◎…成果である問題趣旨、▲…課題である問題趣旨

国語	<p>領域では、「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られる。</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にし、計画的に話し合い自分の考えをまとめる ▲登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える ▲人物像や物語の全体像を具体的に想像する ▲表現の効果を考える ▲漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う</p>
算数	<p>領域では、「数と計算」「データの活用」「図形」に課題が見られる。</p> <p>◎百分率で表された割合を分数で表すことができる ▲整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる ▲正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる ▲長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している ▲示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる</p>
理科	<p>領域では、「粒子」「エネルギー」「生命」「地球」に課題が見られる。</p> <p>◎メスシリンダーという器具を理解している ◎自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる ▲育ち方と主な食べ物の表から、気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる ▲実験の結果から、問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している ▲実験で得た結果を分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる</p>

【中学校】

◎…成果である問題趣旨、▲…課題である問題趣旨

国語	<p>領域では、「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」が全国より高く、「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られる。</p> <p>◎聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する ◎文脈に即して漢字を正しく書く ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する ▲論理の展開などに注意して聞く ▲自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す ▲表現の技法について理解する ▲場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える</p>
----	--

数 学	<p>領域では、「数と式」、「関数」に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎反例の意味を理解している ◎データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる ▲一次関数の変化の割合の意味を理解している ▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる ▲箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
理 科	<p>領域では、「エネルギー」が全国より高く、「地球」に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できる ◎課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いている ▲日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる ▲観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる ▲液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる

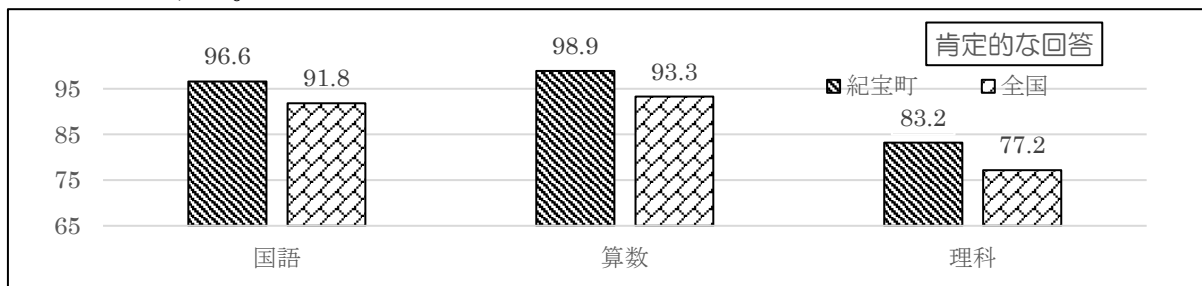
4. 「児童・生徒質問紙調査」の特徴的な傾向

学習意欲、学習方法、生活の諸側面等に関する調査です。特徴的な傾向を考察します。

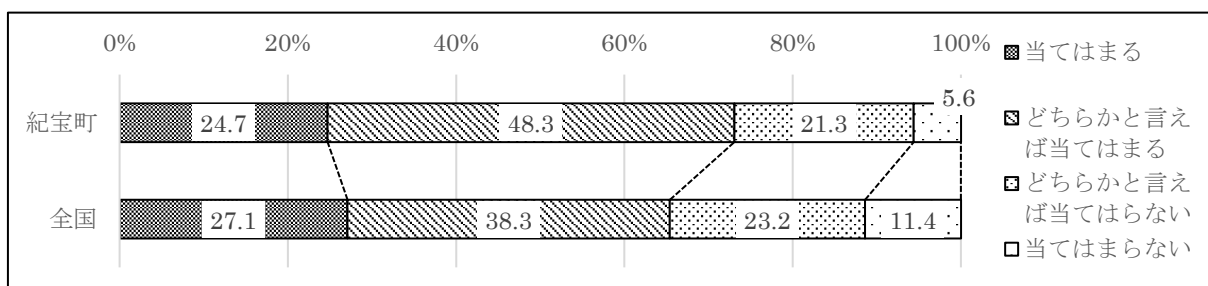
※「肯定的な回答」=『当てはまる』+『どちらかと言えば当てはまる』

学びの充実に向けて 【小学校】

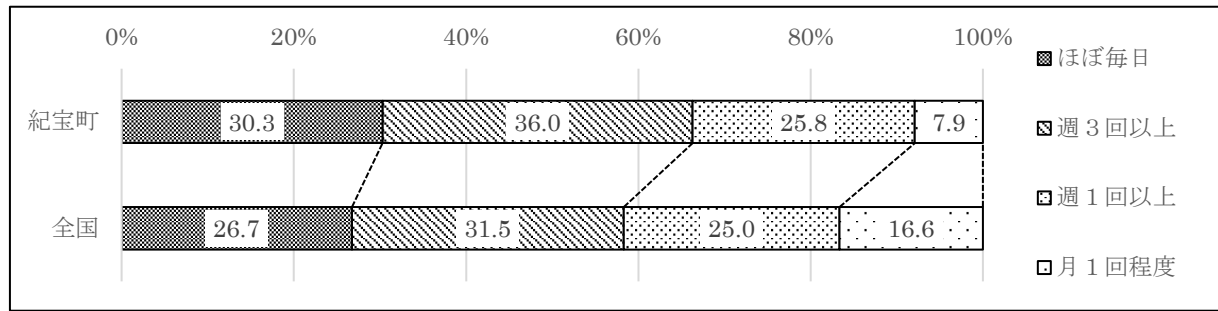
Q1. 国語・算数・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



Q2. 授業で、自分の考えを発表する機会には、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

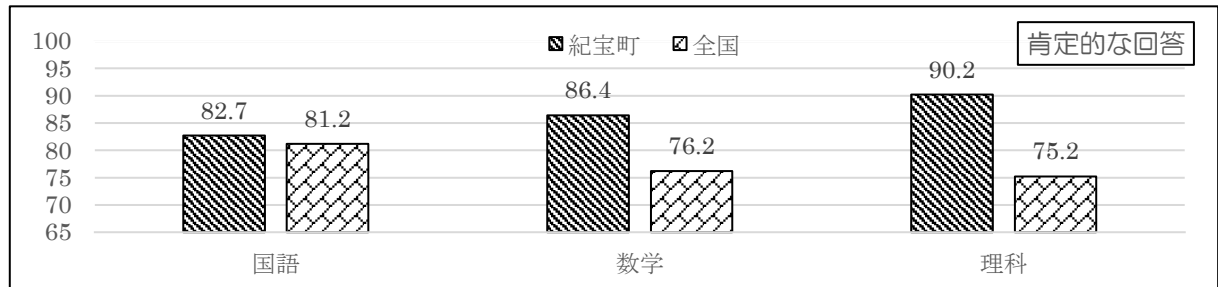


Q3. 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

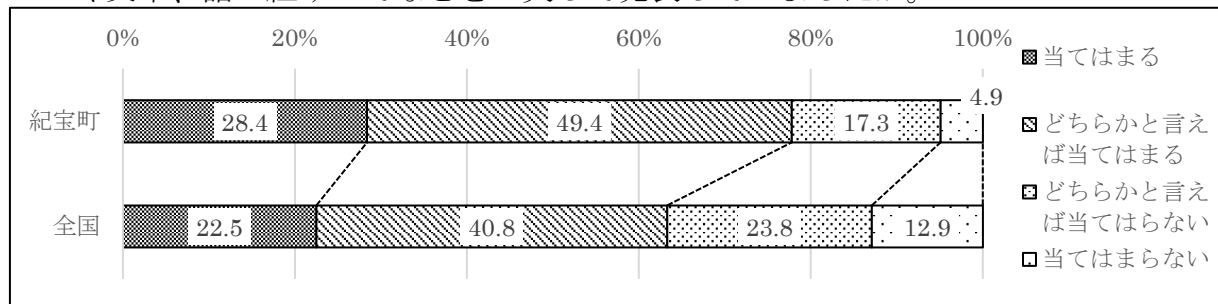


【中学校】

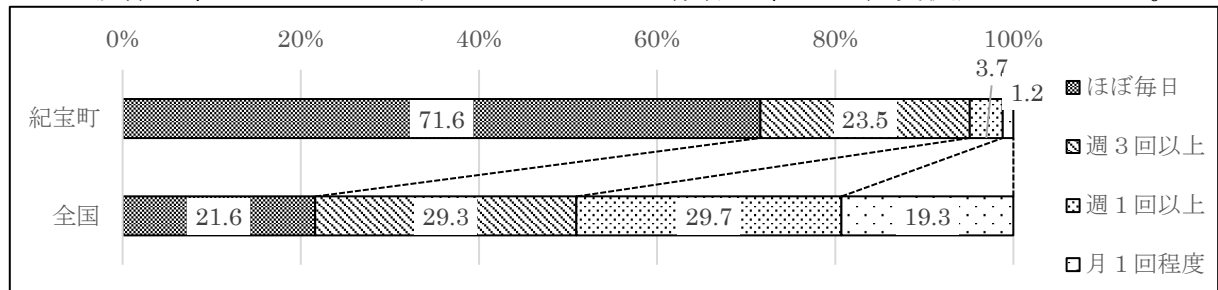
Q4. 国語・数学・理科の授業の内容はよくわかりますか。



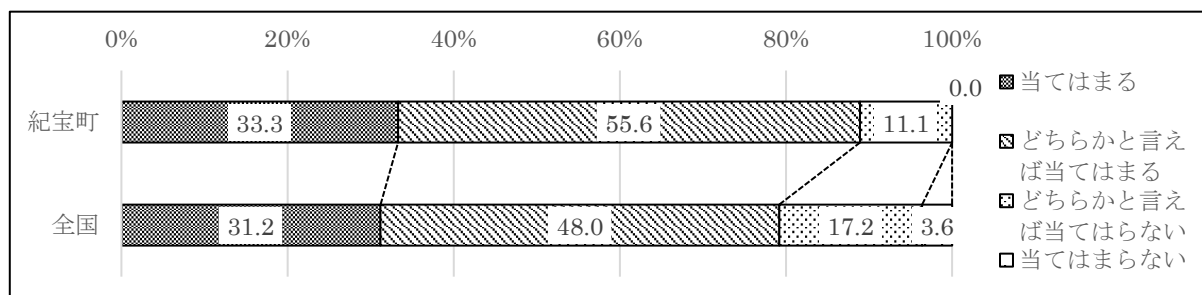
Q5. 授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。



Q6. 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



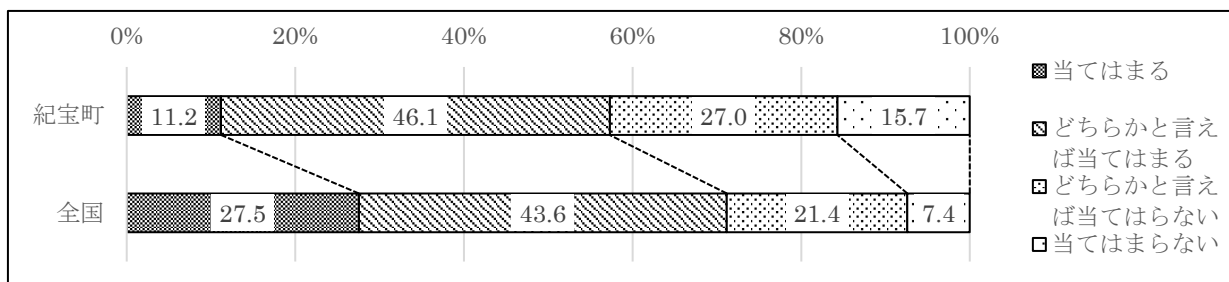
Q7. 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



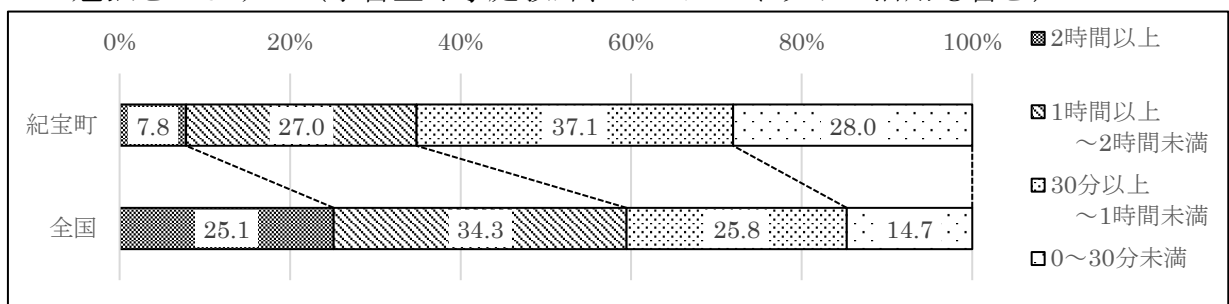
- ◎〔小Q1〕:「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、国語、算数、理科ともに全国よりも5pt程度高い。
- ◎〔小Q2、中Q5〕:「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫している」に対して、肯定的な回答をした割合は、小学生が8pt、中学生が15pt全国より高い。各学校が学習基盤としての言語活動を大切にしながら授業づくりをすすめていることが伺える。
- ◎〔小Q3、中Q6〕:「授業でPC・タブレットなどのICT機器の使用」に対して、週3回以上と回答をした割合は、小学生が8pt、中学生が44pt全国を上回った。ICT機器の活用は、授業の工夫・改善にとって大きな力となり得る。子どもたちが、より能動的で創造的に学習がすすめられるよう、より有益な活用方法を研究していきたい。
- ◎〔中Q4〕:「国語、数学、理科の授業の内容はよくわかる」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、特に数学が10pt、理科が15pt)全国を上回った。わかりやすい授業を構築するための授業の工夫・改善の効果といえる。
- ◎〔中Q7〕:中学校の「自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対しては、全国平均を10pt上回っており、探究心を育てる上で重要な姿勢であり、大切に育てていきたい視点である。

家庭学習・生活習慣について 【小学校】

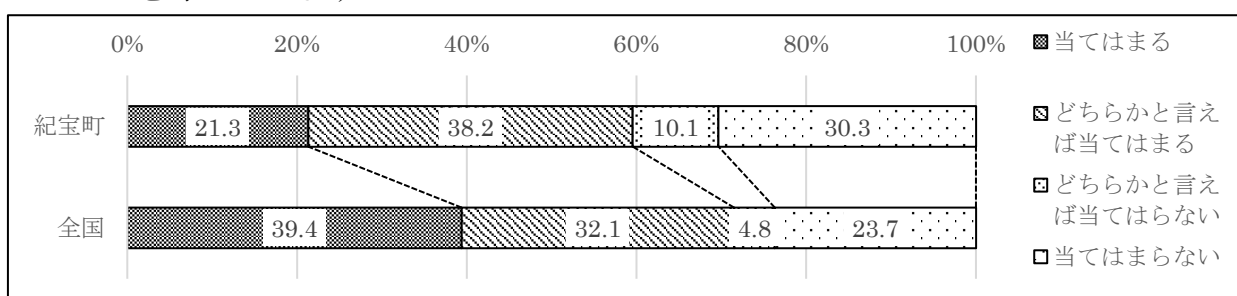
Q8. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（授業の予習や復習を含む）



Q9. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）

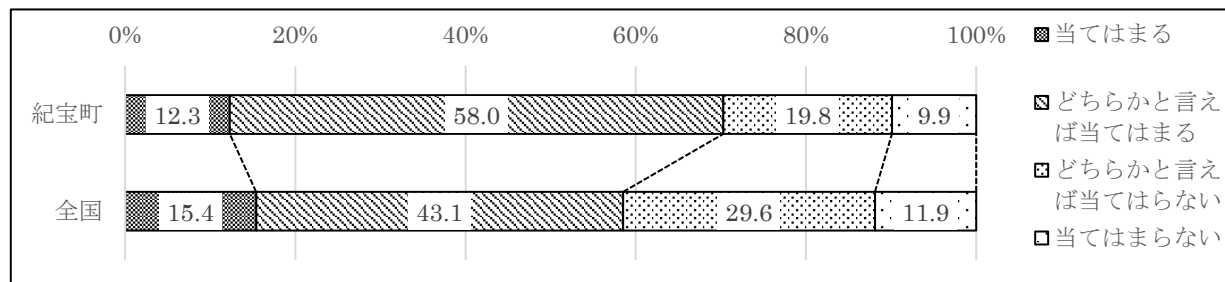


Q10. 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

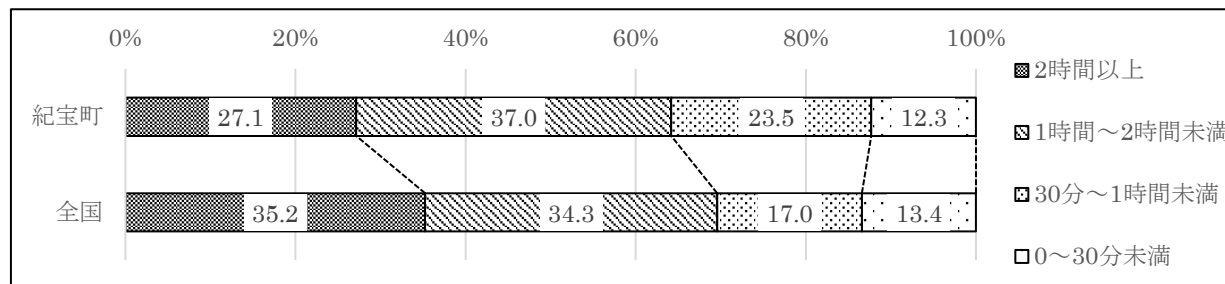


【中学校】

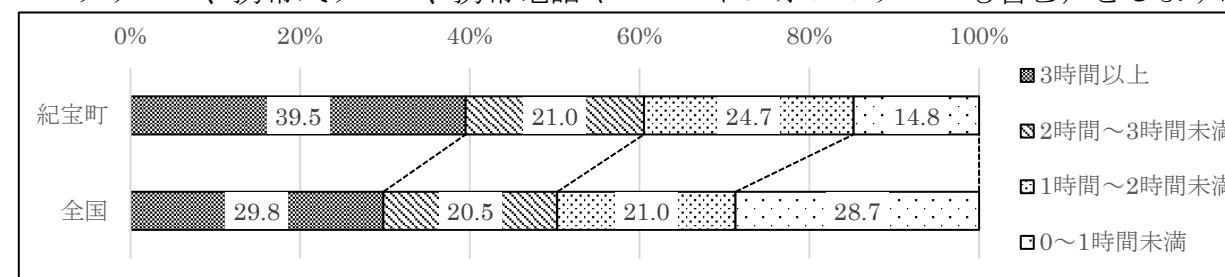
Q11. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（授業の予習や復習を含む）



Q12. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）



Q13. 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンのゲームも含む）をしますか



◎〔小Q8・中Q11〕：「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より14pt下回った。中学生は、全国を12pt上回り、前回（-8pt）と比較して大きく改善した。今後とも、自らの課題を明確にして、計画的に取り組む姿勢を育てていく必要がある。

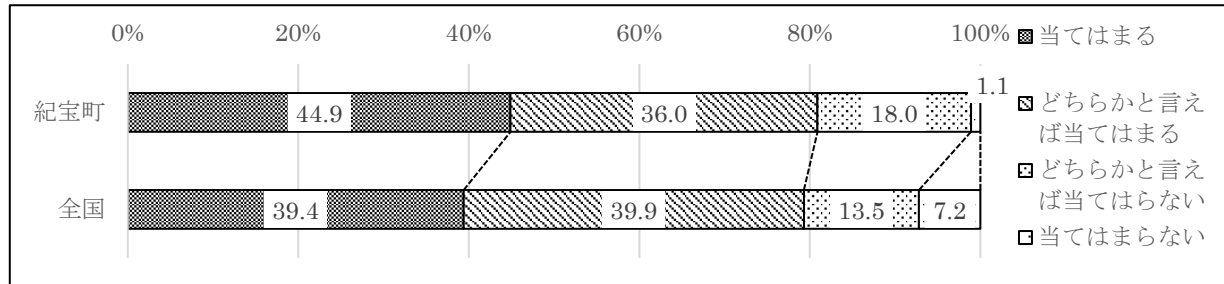
◎〔小Q9・中Q12〕：家庭学習の時間は、「2時間以上」と「1時間～2時間」の割合を合わせて、小学生が25pt（前回；-21pt）全国を下回った。中学生も5pt下回ったが、前回（-14pt）と比べ、改善傾向が見られた。

◎〔小Q10〕「スマホやコンピュータの使い方について約束を守っている」小学生の割合は、全国より12pt（前回；-16pt）低い。約束を守っている紀宝町の小学生を比較すると、昨年より5pt増加している。これらの機器にはメリットがある反面、リスクも隠れている。より良い利用方法を、家庭と学校が連携して子どもとともに考えていく必要がある。

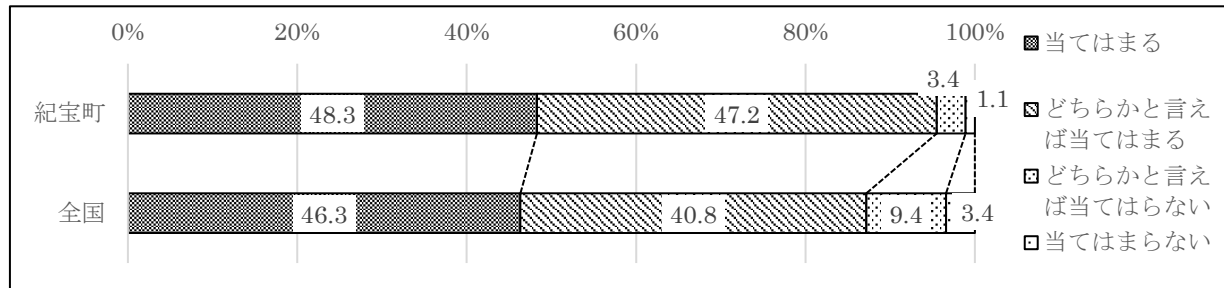
◎〔中Q13〕「普段のテレビゲームや携帯・スマホゲームの利用時間」で2時間以上する中学生は、全国と比較すると10pt高く（前回；+12pt）、横ばいであるが、紀宝町の中学生の割合は、昨年より8pt低くなっている。〔中Q11〕の結果より、「学習計画を立てて勉強する」割合が高くなっているという一定の成果は見られるが、学習の習慣化を目指して、家での機器の利用に関する約束事や利用方法とともに、今後も家庭と連携・協力しながら取り組んでいく必要がある。

自尊感情・規範意識などについて【小学校】

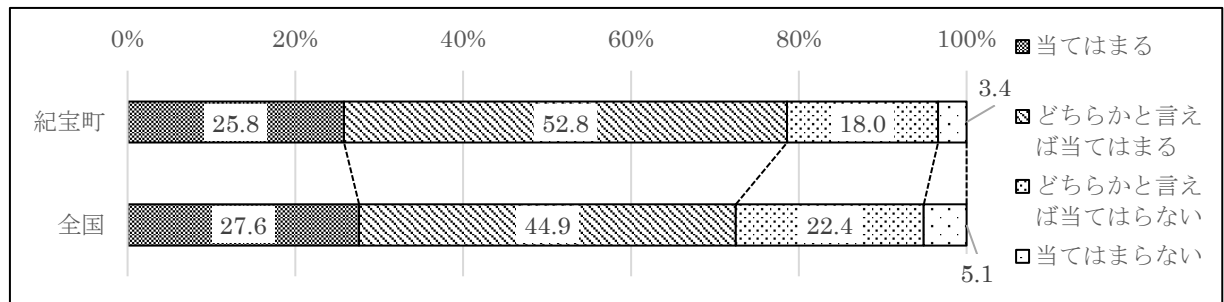
Q14. 自分には、良いところがあると思いますか。



Q15. 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。

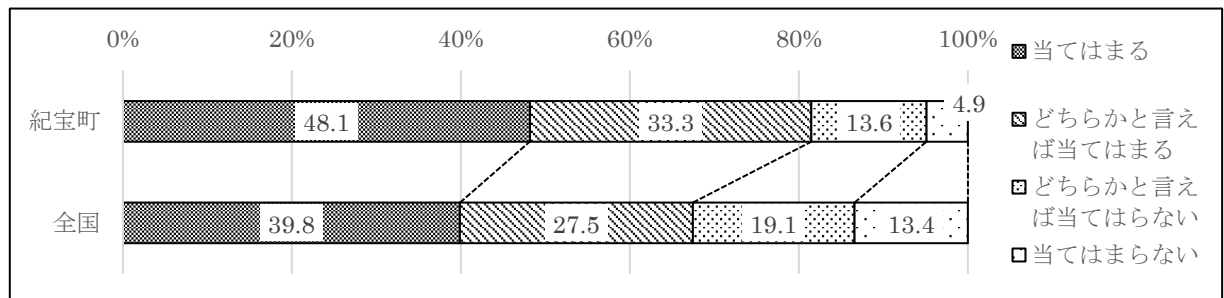


Q16. 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

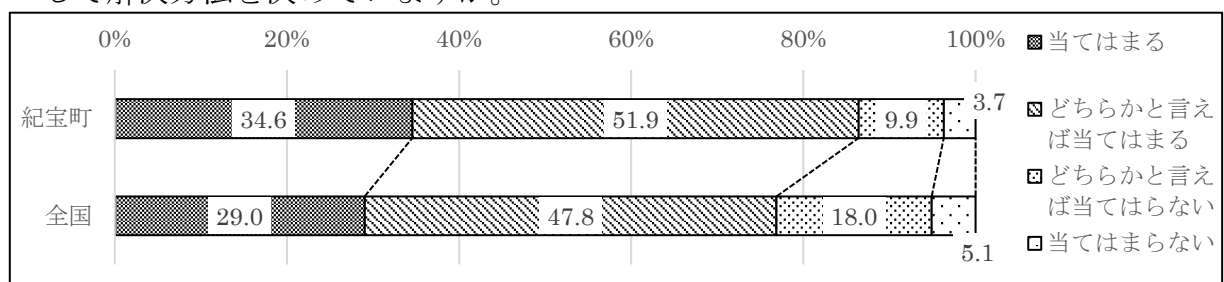


【中学校】

Q17. 将来の夢や目標を持っていますか



Q18. 学級生活をより良くするために、学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。

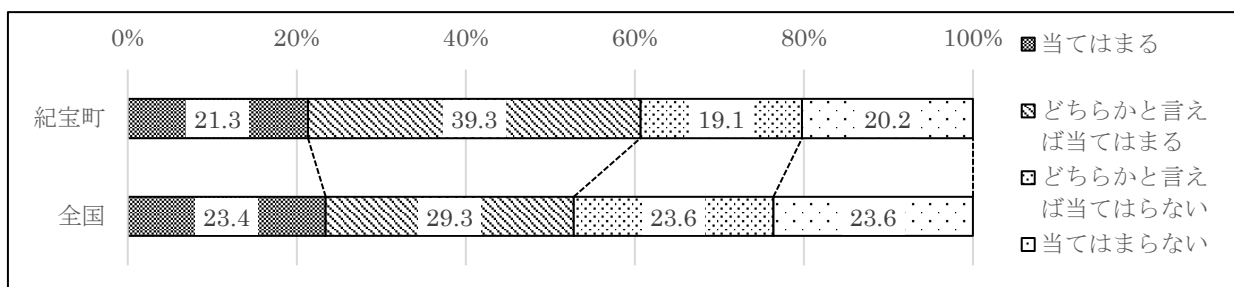


- ◎〔小 Q14〕「自分には、よいところがある」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より 2pt 高かった。前回（-6pt）より改善されており、今後も自己肯定感を育むことを大切にしていきたい。
- ◎〔小 Q15〕：「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国を 8pt 上回っている。どんな場面でも子どもの思いを聴き、励まし自信を持たせてあげることが大切に接していきたい。
- ◎〔小 Q16〕：「失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国を 6pt 上回った。昨年は、全国を 5pt 下回っていたので、大きく改善された。チャレンジしたことや取り組んだ過程を褒めてあげ、小さな成功体験の積み重ねにより自信につなげていきたい。
- ◎〔中 Q17〕：「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国より 14pt 高くなっている。前回（+3pt）、前々回（-9pt）と、年々改善されてきている。子どもの意欲ややろうとした姿勢を認め努力することを後押ししていきたい。
- ◎〔中 Q18〕：「学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国を 10pt 上回っている。日頃から、一緒に考えたり意見交換することは、互いに認め合う関係づくりにおいて重要である。共に協力して探求する姿勢を大切にしたい。

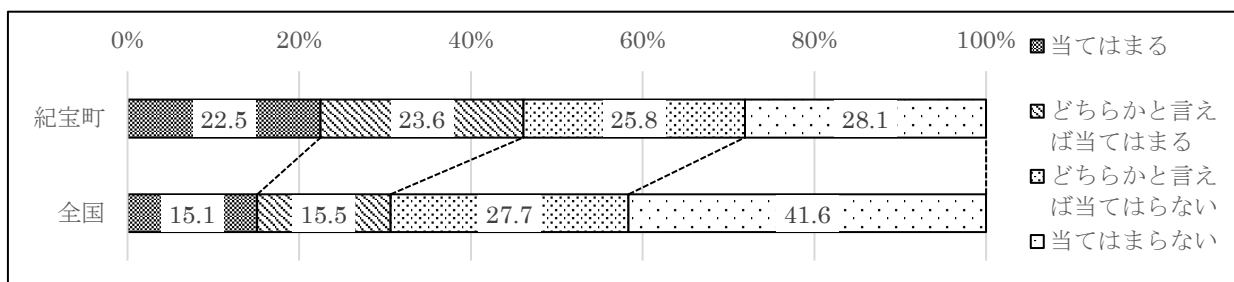
地域・社会との関わりについて

【小学校】

Q19. 今住んでいる地域の行事に参加していますか

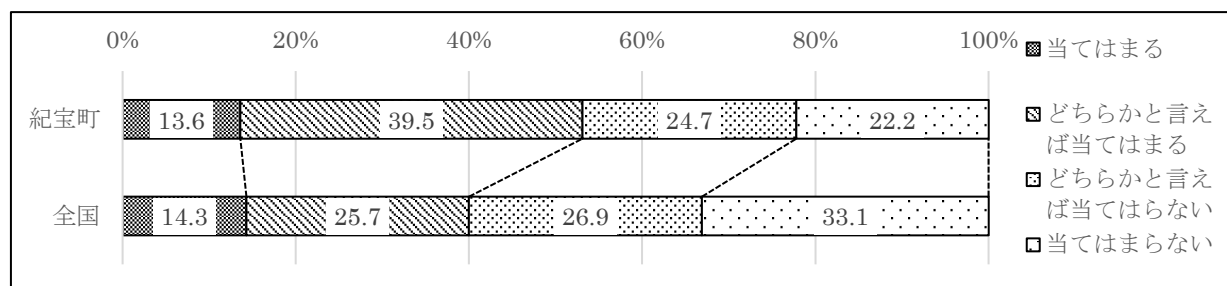


Q20. 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）

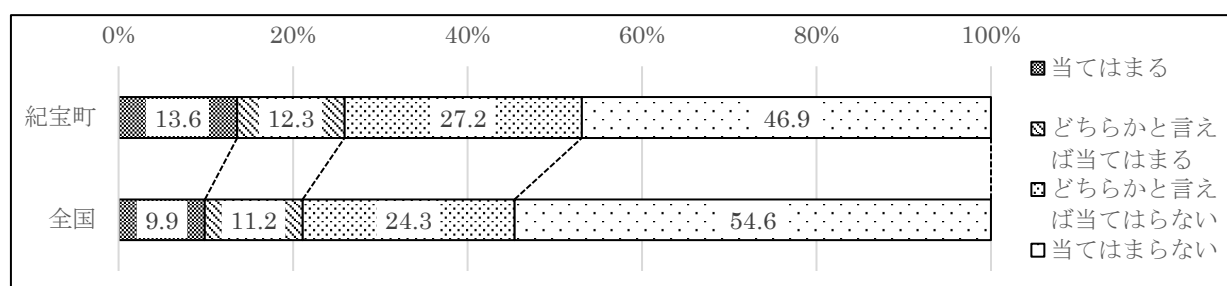


【中学校】

Q21. 今住んでいる地域の行事に参加していますか



Q22. 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）



◎〔小 Q19・中 Q21〕：全国的に地域と子どもたちとの関わりが薄れる中、紀宝町の小中学生は、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より 8pt 高く（前回+5pt、前々回-5pt）、さらに中学生の割合は、全国より 13pt 高くなっている。小学生の地域行事への参加は年々増加している。

◎〔小 Q20・中 Q22〕：「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったりする」ことに対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より 16pt 高い。中学生の割合は、全国より 5pt 高くなっている。紀宝町の小中学校が、コミュニティ・スクールとして地域の方と関わりながら、子どもたちを育てていただいている成果といえる。
※コミュニティ・スクール（ニ学校運営協議会を設置している学校）

5. 「学校質問紙調査」の特徴的な傾向

学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関して学校長が回答する調査です。特徴的な傾向を考察します。

紀宝町の小中学校の【強み】 全国平均を上回った項目

《組織的な学校経営の推進》

- ◎児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを確立していますか
- ◎教員が授業や学級で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合ったり、ともに問題解決に当たることを行いましたか
- ◎創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか

- 学校を取り巻く多くの課題を解決していくためには、身近で起こっている様々な変化を敏感に察知し、学校が一つの組織として情報を共有することが重要である。そのことによって、適切な判断や対応に結びつけることができる。紀宝町の小中学校においても、学校長のリーダーシップのもと、PDCA サイクルによる改善活動、教職員の協働による組織的・継続的な取り組み等が進められていることが伺える。紀宝町の児童・生徒たちの成長や学力向上に向け、今後とも各学校間で連携しながら継続した取り組みとして充実をしていきたい。

《授業の工夫と改善に向けた研修等の推進》

- ◎児童生徒に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で活用しましたか
- ◎教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業をどの程度行いましたか
- ◎児童・生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか
- ◎授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか
- ◎将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか
- ◎全国学力・学習状況調査の結果について、「学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」また、「近隣等の小中学校と成果や課題を共有しましたか」「保護者や地域の人たちに対して公表や説明（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）を行いましたか」

- ICT環境の整備により、紀宝町内の各学校では積極的に授業でPC端末等を活用し、「協動的な学び」と「個別最適な学び」の充実に努めている。また、紀宝町学力向上推進協議会において各学校が連携し、大学教授等の講師を招聘した公開授業研究会などを通して、教職員の教育力と指導力の向上に取り組んでいる。紀宝町内の学校が連携し、教職員研修を充実させることにより、確かな学力の定着と向上に取り組んでいることが伺える。
- 町内の全ての小中学校では、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の分析結果を踏まえながら、授業の工夫・改善に取り組んでいる。今後も保護者のみなさんの理解を得ながら、子どもたちが学びに向かう力を育てていきたい。

《「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善》

- ◎児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
- ◎児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか
- ◎児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

- 児童生徒質問紙調査においても「自分で考え、自分から取り組む」「考えがうまく伝わるよう工夫して発表する」との質問に肯定的な回答の割合が高く、紀宝町の各学校が「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切にしながら授業づくりを進めていることが伺える。

《地域とともにある学校づくり～地域との関わり～》

◎保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

◎コミュニティ・スクール（学校運営協議会）などの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか

- ・ 新型コロナウイルス感染症により、社会経済活動が低迷する中、紀宝町内の学校では、地域・保護者と協力し、様々な工夫や努力を重ねながら多くの活動を実施することができた。児童生徒質問紙調査の結果にもあるように、地域の方々に、様々な場面で関わっていただいていることが、子どもたちの地域行事への参加から伺える。また、学校質問紙調査結果からも、地域のみなさんが、子どもたちの成長に寄与していただいていることが伺える。
- ・ 今後も、地域との関わりを大切にした教育活動を充実していくために、「地域とともにある学校（＝コミュニティ・スクール）」として、「紀宝町学校運営協議会連絡協議会」を中心に、継続して各学校の活動を支援していきたい。

紀宝町の小中学校の【弱み】

全国平均を下回った項目

《校務の効率化と児童生徒の ICT 機器の活用法》

▲ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員の仕事（会議の書類作成・家庭への調査・学校通信等のお知らせ等）は軽減しましたか

▲コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか

▲児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を「考えをまとめる」「子ども同士がやりとりする」場面で使用させていますか。また、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

- ・ 校務を効率化していく上でも、ICTの活用が重要な手段である。しかし、学校現場では、まだまだその機能を十分使いこなしていない現状が伺える。教職員が、子どもたちと向き合う充実した時間を十分確保していくためにも、今後もサポートしていく必要がある。
- ・ 児童生徒質問紙調査より、紀宝町の学校では、授業の中でICT機器を週3回以上使用している割合は、全国より高いことが伺える。しかし、考えをまとめたり、やりとりする活動には課題がある。今後は、PC端末の持ち帰りによる家庭での活用、そして不登校等の子どもへの支援方法とともに、授業での有効な活用方法について充実させていく必要がある。

6. 紀宝町教育委員会の取組 =今後の改善に向けて=

今回の学力・学習状況調査の結果より、児童生徒や各学校の「強み」「弱み」等の傾向を捉え、具体的な施策に反映していきます。また、各学校の主体的な取組を支援する主な事業として、以下のような児童・生徒の学力向上の取組を継続し推進します。

◎ 紀宝町学力向上推進協議会の充実と教職員の教育力・指導力の向上を目指した授業の工夫・改善、全職員の協働による学力向上の取組の継続的な検証サイクルの確立

※全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析と活用

- ・各学校での自校採点と結果分析による、課題の共有と授業改善
- ・県教委作成ワークシートや過去問題による授業・家庭学習への活用

※学力向上に向けた各学校の取組と支援

- ・すべての教科における「主体的・対話的で深まりのある学び」の実現に向けた確かな学力の育成
- ・授業の工夫と改善の取組を通じた、学習の基盤としての言語活動の充実

※町内の各学校の公開授業研究会等への支援

- ・先進的授業研究に学ぶ機会としての著名な大学教授等の講師の招聘
- ・各学校の授業改善と相互交流による優れた実践の共有及び活用

※ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

◎ 小学校英語力向上のための小学校英語担当者会議の開催と支援の充実

※小学校の相互連携及び小中連携による英語教育の推進（ALT を効果的に活用した授業づくり）

◎ 各学校の授業力向上と指導方法の改善のための校内研修への支援

- ※各学校の校内研修へ町教育委員会指導主事・アドバイザーを派遣
- ※県教育委員会や紀州教育支援事務所指導主事からの支援・助言

◎ サマースクール・ウィンタースクールおよび放課後サポートスクール事業による自主学習の習慣化

◎ 教員の授業力向上と指導方法の改善を図るための紀宝町研究指定校事業（毎年2校を指定）の実施や石川県中能登町教職員との視察交流研修の推進

◎ 紀宝町立図書館との連携による幼児期からの読書活動推進の取組や学校における読書活動充実のための支援

◎ 県教育委員会より「ICTを活用した『わかる授業』推進事業」のモデル校を指定

※ICTを活用した効果的な習熟度別少人数指導の推進（町内小学校1校が指定）

◎ 「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組

保護者・地域の皆様の日ごろからのご理解とご協力に感謝申し上げます。今後も、県教育委員会と連携しながら、これらの取組を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童・生徒の学力の向上に繋げるための支援に取り組んでまいります。